

東京学芸大学書道科同窓会

硯心会だより 第9号

発行
2022年4月1日

卒業・修了おめでと〜うございます

本年度卒業を迎えた硯心会会員および新硯心会会員から、学部代表（理事）1名、教職大学院修了生1名、修士課程修了生1名に、代表して卒業を迎えてのお言葉をいただきました。
卒業生・修了生の皆様、ご卒業おめでとうございます。さらなる活躍を祈念しております。（事務局）

2021年度卒業・新理事挨拶

70期理事 久保彩織くぼさおり

この度、70期の理事に就任いたしました久保彩織と申します。
学部生の間、硯心会の先輩の皆様には、作品・展示などの様々な場面においてご批評いただき、大変ありがとうございました。

ございました。新型コロナウイルスの影響により、活動が難しいこともございました。その時々にご案じくださいます。ありがとうございました。
今後は、東京学芸大学書道科・書道専攻卒業生の一員として、微力ながら硯心会の発展のお手伝いをさせていただきます。至らぬことが多々あると存じますが、どうぞよろしくお願いたします。

教職大学院修了に変えて

68期 林 美月

この度、教職大学院の書道教育サブプログラムを修了いたしました。2016年にB類書道科に入学して以来、6年の月日が経ちました。先生方

をはじめ、硯心会の皆様方にはご指導ご鞭撻を賜り、誠にありがとうございます。4月からは東京都の公立中学校の教員として、大学での貴重な学びを生かして一層精進してまいります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

修士修了に寄せて

68期 郡司健太郎

今春、修士課程を修了した郡司健太郎と申します。書道専攻卒業後、博物館の研究室へ進学し、書の鑑賞について研究しました。また、中学校と高校で非常勤講師としても勤務させていただきました。

在学中、硯心展や学芸展にも参加し、先輩方の存在の大きさを切に感じる二年間でした。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

特別寄稿

書道文化の魅力、広く国民に

22期 長野秀章

今年6月施行の改正文化財保護法により、無形文化財などに新たに登録制

度が設けられ、「生活文化」としての書道についても無形文化財に登録が可能となった。登録無形文化財には、それを保護、継承していく「保持団体」が必要となるが、8月に「日本書道文化協会」が設立する運びとなった。

タブレット端末やスマートフォンの普及により、日常生活と手書き文字や書道の関係が乖離してしまっている。今、書道界にとって登録無形文化財に登録されることは誠に朗報であった。

人類にとって書道は人の思い、心を伝えるツールとして、また書道芸術として人間の生活と密な関係で発展し継承されてきた。また最近では、毛筆を使用した広告を目にすることが多々あり、活字にはない毛筆が醸し出す「温もり」や人々を引きつける「訴求力」が書道の魅力の一つと言ってもいいように思われる。

書道という日本の伝統文化は、先人たちのたゆまぬ努力と今まさに書道を学ばれている愛好家の支えがあつてこそ、現在まで存続し続けてきた。しかし、書道人口が減少しているという現状を鑑みれば、残念ながら書道文化の素晴らしさは、現在、書道塾に通われている方々や書道に関心がある方々に

しか伝わっていないのも事実である。三つ星レストランのどんなにおいしい料理でも、一度は食べてもらわないことにはおもしろさは伝わらないのと同じことで、いくら書道文化は素晴らしいと言っても少しでも体験していただかないことには、広く国民に周知されないかない。

日本書道文化協会として国民に書道文化の素晴らしさを伝えるために、従来のような書道展を開催するのと同様に、各書道団体の垣根を越えて、今まで書道文化に触れてこなかった、また書道そのものに関心が無かった国民に向けて、様々な場所で書道文化に触れていただくイベントなどを行ってほしい。そして、その活動をSNS（ネット交流サービス）で発信するなど、団体設立の趣旨に「時代の変化に応じた創造と発展」とあるように、現代社会のライフスタイルに合った形で書道の素晴らしさを広く国民に周知してもらおうような活動もこれからはますます重要になってくるだろう。

また、今まさに失われつつある文字文化、とりわけ毛筆による先人たちの日常の表現などは、今一定の保護をしなければならぬ。大森貝塚で有名な

モースが日本の江戸、明治初期の看板写真を購入し、アメリカに持ち帰ったことに象徴されるように、日本にある日常の文字文化の重要性を広く国民に訴えていく活動もこの協会の仕事の一つと言える。さらに、これらを整理、研究する人材の育成など書道というジャンルを多角的に見た時、従来の書道史だけではなく書道文化史的な研究などにも手を広げる時期に来ているように思われる。いずれにしても、この度の登録無形文化財への登録をきっかけとして、書道界全体が一致団結し、国連教育科学文化機構（ユネスコ）の無形文化遺産登録へとつながっていくことを期待したい。（毎日新聞 2021年11月18日号より転載）

2021年度春季理事会報告

日時 2022年3月21日（月）
14時～16時
場所 アルカディアアケ谷

1～4記載省略
5 報告および審議

報告事項

① 第40回硯心会書展について

（殿村美奈子部長）

出品者数 127名（前回展74名）
作業分担 記載省略
総来場者数 約820名
▼変更点、反省
・作品集を表紙2色刷にし、1ページに3点掲載し、題名、サイズも掲載とした。
・搬入方法の検討が必要。

② 第45回学芸書道全国展について

（西澤 憂部長）

出品団体数 115団体（14団体増）
総出品点数 9284点（1566点増）

▼変更点、反省

- ・表彰式は郵送による授与とした。
- ・審査の方法については改善する。
- ・作品受付方法（局留め）については、引き続き周知をはかりたい。
- ③ 本部事務局より（草津祐介）
- ・合同同窓会は延期となった。
- ④ 会計報告および監査報告↓承認
- ⑤ 交流展について（後援事業）

本年度も新型コロナウイルスの影響により延期となった。

⑥ その他

書展部に込山誉実、学芸展部に久保彩織、望月歩佳（敬称略）に加わっていた。 （加藤泰弘理事長）

審議事項

① 2022年度以降の行事について

（加藤泰弘理事長）

・8月27日に合同同窓会を開催予定。（新型コロナウイルスの状況による）

・同期展は32期福田みどり理事の期にお願いしたい。

・特別展示は今年度はおこなわない。

・各地域で活躍いただいている卒業生にスポットをあてた企画をおこなってきたい。作品とともに教育方面での活躍、地域貢献等もわかるように展示していきたい。

・会則第5条にある講演会を実施したい。
・学芸書道全国展表彰式において、過去に最高賞を受賞した学生で東京学芸大学に進学し、教員として活躍し、学生が学芸書道全国展に出品しているという方に話をしてもらう機会を儲けたい。
・硯心会書展の展示業者として牧野商會を依頼をしたい。

・展示場所は今年度と同様。企画展を実施した壁で同期展、地域の卒業生の企画を展示したい。

↓詳細は理事長委任で承認。

② 第41回硯心会書展について

（殿村美奈子部長）

・本年度から大きな変更はない。
・出品料の支払い先が変更となっている。

・本年度の反省を踏まえ、「諸注意」の部分に文章を加えている。

・表装の価格表が材料費の高騰により変わっている。

↓承認

③ 第46回学芸書道全国展について

・本年度から大きな変更はない。

・作品サイズ等の追加については、また作業の関係上、増やすことは慎重にしたい。

・「文部科学大臣賞」については、今年も申請するが許可はできないと記載ができないため、要項発送時は記載をしない。

意見・質問

・文部科学大臣賞の授与については、第45回展で授与したことは記載可能ではないか。↓挨拶文のなかで記載する。
・上位賞、とくに最高賞の表装が悲しくなるものだった。対応してもらいたい。
↓他の賞と表装のランクを大きくかえることはできないが、出品いただく際に表装しやすいかたちで対応してもらおうようにしていきたい。

↓承認

④ 名簿発行について（理事長、本部）

今年度発行予定。ただし、発行の形態などは検討していきたい。

↓承認

⑤ 交流展について

今年度の三國展については、日本で開催の交流展は開催したい。その際は例年通りの後援をお願いしたい。

↓承認

6記載省略



会員動向

「七回忌追善 横山淳一展」の開催について

硯心会理事長も務めた横山淳一氏（14期）は、2016年12月17日、永眠しました。あまりにも急逝だったため、未だにその訃報さえ知らなかったという方々もおられますので、あらためてここに通知いたします。

氏は1943年4月12日に高知市で生まれ、高知県立高知大手前高等学校を卒業後、東京学芸大学に進学し、書道一筋の生涯を歩まれました。都内の高等学校や早稲田大学、専修大学、昭和女子大学などで後進の育成にあたりながら、「現代の国語生活に即した書」を提唱して自詠自書を実践し、自游書展などを主宰しました。

本年12月13日（火）～18日（日）、

東京銀座 鳩居堂三階画廊にて「七回忌追善 横山淳一展」を、令夫人 横山友理子様（25期）のお許しを得て、生前の関係者の結集で開催予定です。独自の書境を築かれた横山淳一氏の遺作から厳選した数十点を展示します。どうぞご来場、ご観覧をお待ちします。

なお、本展にご賛同ご協賛いただける方には、趣意書等の必要書類をお送りしますので、左記宛にご連絡ください。故横山淳一 七回忌の香華に代えて、ご支援を賜りたく、紙面を借りてお願い申し上げます。

（財前謙記）

横山淳一展事務局

メール funy.yuima@gmail.com

電話 090-9300-6376

（財前）

「七回忌追善 横山淳一展」

2022年12月13日（火）～18日（日）

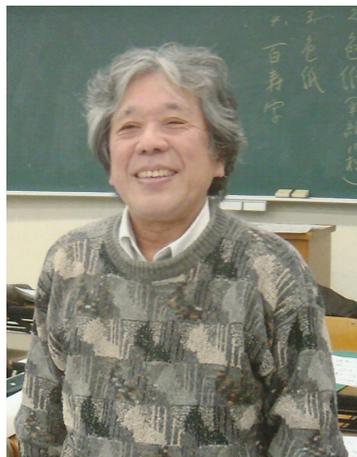
東京銀座 鳩居堂三階画廊

65期込山誉実が個展を開催

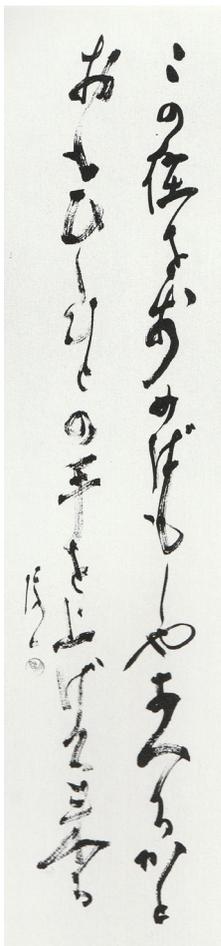
第一回 込山誉実書展「くさむすび」
2022年2月11日～2月13日

高架画廊

この度初めての個展を開催させて頂きました。高校、大学、大学院と学び得たものを形にし、発表できたこと嬉しく思うと同時に、ここまで指導して頂いた先生や先輩方に感謝の気持ちでいっぱいです。書を書いたり鑑賞し味わうことの喜びや、楽しい気持ち、ご来場頂いた皆様方に少しでも伝われ



横山淳一氏（右）と作品（左）



幸いです。(込山誉美)



11期真下京子が個展を開催

真下京子近作展

ーたおやかに・あでやかにー

2022年3月8日(火)〜13日(日)

ギャラリーコンセプト21

出会いと別れをテーマに「日頃思っていることを気負うことなく表現した」近作を展示。群馬県高崎市在住の染色家・吉田晴子氏とコラボレーションした深みのある赤色とのコラボレーションもおこなった。展示は書のひろば (<https://shonohiroba.jp/shodo->

news/20220309-1.html) から動画で視聴が可能。



伊東参州コレクション展が開催

伊東参州コレクション展

併催第25回記念蒼泉会書展

2021年12月7日(火)〜12日(日)

東京銀座画廊・美術館

東京学芸大学名誉教授・伊東参州収集の書画55点、遺墨6点が展示された。

同展開催にあわせ、図録も発行されている。希望者は飯森由実(13期)まで。ただし、在庫限り。



各硯心会書展開催予定

第50回千葉硯心会書作展

(50周年記念展となります)

場所：千葉県立美術館

会期：令和4年8月9日〜14日

懇親会・祝賀会：未定

(状況をみて慎重に検討)



展覧会(個展、同期展)の開催予告、

開催報告、出版等の情報を事務局・草津までお寄せください。(メールで)

連絡で返事がない場合はお手数ですが

郵送等でお知らせください。次号で紹介させていただきます。

計報



計良裕佳(袖石) 26期

小倉正俊(釣雲) 28期

謹んでお悔やみ申し上げます。

発行 ◎硯心会本部 ☎184-8501

東京都小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学 加藤泰弘研究室

編集 ◎硯心会事務局 ☎124-0011

葛飾区四つ木4-4-12 草津祐介

メール usk932@hotmail.co.jp

硯心会HP <http://kenshinkai.grupo.jp>

硯心会HP

